

それを整理する中で、私が勝林寺の二十代住職であること、十九世父哲俊・母瞭子 十八世隆夫・いつゑ 十七世哲雄・やえの 十六世可生・よしの という明治以降今の勝林寺を支えてきた住職坊守の名前と姿をやつと確認することが出来ました。そしてそれにまつわる勝林寺変遷の姿と多くの人々の表情を見る中で、私の記憶の中にはない勝林寺の歴史の深さを振り返り、その中に今を生きていることを感じさせられました。

勝林寺報成

年頭にあたりまして、勝林寺有縁の皆様、ご門徒の皆様にあらためましてお礼申し上げます。昨年は前住職（西池哲俊）病状看護、介護、そして葬儀、法要と一年中多方面から支えていただきました。有難うございました。

今年は住職・坊守共に還暦を迎えます。このひとまわりの人生も、きっと自分の記憶の中にはない多くの出来事に支えられ、そしてまた果てしなく繰り返す次の暦に繋がっていくのだと思ひます。私たちが“今”称えさせていただくお念佛も、阿弥陀様が法藏菩薩であつた時に世自在王仏のところに行つて、たくさんの仏土を見られたという“歴史”があつてのことだといふことです。



			葬儀
			十二月六日
上小田	斎藤	ちよ様	九十二歳
宮内	角折	郁子様	八十四歳
十二月二十八日			
榎見			
湯口			
孝春様			
九十二歳			

近年私たちの社会はますます、今”という刹那を自分の意識の中だけでとらえ、大きな存在と時間の中で生きるいのちの輝きを見えなくする闇が深まって”いるようです。

今年は勝林寺に響く念佛の光が人々を照らし混迷する日本、世界を目覚めさせていけるよう第二十世勝林寺住職として頑張っていきたいと思います。

迎春

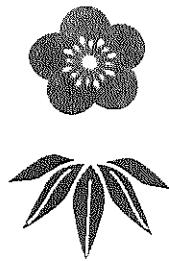


一月勝林寺予定

今年もよろしくお願ひいたします		一日(月)	元旦	
勝林寺	住職	西池匡紹	四日(木)	但東方面 年始
坊守		西池美幸	七日(日)	坪口 報恩講・女中講
後継住職		西池深音	八日(月)	坪口 報恩講
寺族		西池希里	九日(火)	坪口 報恩講
責任役員		西池入海	一〇日(水)	和屋・出石A 報恩講
中島武志		永井孝一郎	一一日(木)	出石B 報恩講
総代会長		田中重雄(栗尾)		
総代		中嶋英樹		
稻葉保夫		稻葉保夫		
足立幸夫		足立幸夫		
田中重雄(小田)		田中重雄(小田)		
仏社会長		山田博文	二二日(金)	出石C 報恩講
副会長		稻葉保夫	二三日(土)	勝林寺 監査
会計		坂本智	二四日(日)	樫見 報恩講 女中講
顧問		永井正人	二五日(月)	樫見 報恩講
事務局		横山広義	二六日(火)	樫見 報恩講
仏婦会長		山田 輝幸	二八日(木)	勝林寺 仏社 三役会
会計		永井春代	二〇日(土)	勝林寺 代議員会
副会長		大石佐代子	二一日(日)	関岡孝繕宅 一周忌
事務局		岡野多鶴子	二二日(火)	齋藤利夫宅 忌明法要
事務局		川見祐枝	二三日(木)	勝林寺 仏社 役員会
事務局		清水尚子	二五日(木)	勝林寺 仏社 役員会
世話人		斎藤昌子	二六日(金)	みのりを聞く会
法輪会代表坂本 貢		濱 美知代	二七日(土)	宮嶋大樹宅 三回忌
世話人		岩上加代子	二八日(日)	田中歳康宅 三回忌 (敬称略)

知ることと分かること

私たちには、ふつう何かについて認識する、理解することを、知るとか分かるといいます。ところで、この「知る」ということと、分かるということとは、その言葉の成り立ちからいふと異なつてゐるわけです。



知るとは、もともとは全体を所有する、領（すべ）ることによって、そのすべてを理解することであり、分かるとはもともとは一つのものが分かること、別々に区分されることで、対象を分割することによって細かに理解することをいいます。

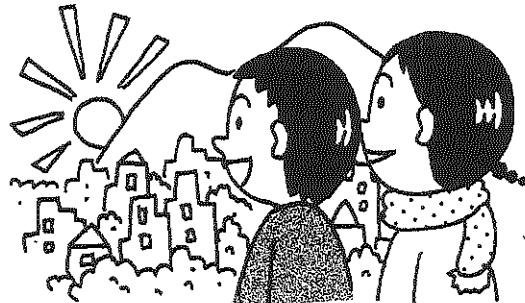
そしてまた、私たちがなにかについて知る、分かるということには、自分の感情にもとづいて、それを情緒的に理解する場合があります。たとえば、美しい景色を見て感動するなどがそれであります。しかしながら私たちは、さまざまのことについて、それを自分の知性にもとづいて、知覚的、理論的に受け止め、それをめぐつてあれこれと思惟し、考察して、それについて知る、分かるということをいたします。そしてまた、私たちがものを知る、分かるという場合、そのような感情のレベルでもなく、知性のレベルでもなくして、それよりももっと深い心、靈性（たましい）のレベルで、知る、分かるといふ世界があると思います。たとえば、親の恩を知る、それについて分かる、という場合です。

しかもまた、そのような知る、分かるということをめぐっては、知るものと知られるものの二次元的、対立的な関係において、まったく客観的、抽象的に、知る、分かるという場合があります。しかしながらまた、その両者がまったく

くひとつになった、知るものが、そのまま知られるものであり、知られるものが、そのまま知るものであるというような、主客一元的な関係において、主体的、体験的におもいあたるというような、知り方、分かり方があるものです。仏法を学ぶということは、何よりも、その仏法を、わが身にかけて聞くことではなればなりませんが、そのことは決して仏法をたんに知つていくものではありません。しかもまた、そのことは、私のことを棚に上げておいて学ぶのではなく、仏について聞くことは私について聞くことであり、仏について分かることはわたしについてわかることであるように、私の生命の中に仏を、仏の心の中に私を発見するように、もっとも深い心のところで仏法を聞き、仏法について分かっていくことが大切です。

それが仏法を学ぶことのいちばん大切な極意というものです。

(信濃峻磨遺稿法語集より引用)



(信楽峻磨遺稿法語集より引用)

くひとつになつた、知るものが、そのまま知られるものであり、知られるものが、そのまま知るものであるというような、主客一元的な関係において、主体的、体験的におもいあたるというような、知り方、分かり方があるのです。仏法を学ぶということは、何よりも、その仏法を、わが身にかけて聞くことでなければなりませんが、そのことは決して仏法をたんに知つていくことであつてはなりません。仏法は分かっていくものです。しかもまた、そのことは、私のことを棚に上げておいて学ぶのではなく、仏について聞くことは私について聞くことであり、仏について分がることはわたしについてわかることであるように、私の生命の中に仏を、仏の心の中に私を発見するように、もつとも深いつしていくことが大切です。

それが仏法を学ぶことのいちばん大切な極意といふのです。

晴れて成人を迎える皆様と今日 懸命に育ててこられましたご家族の皆さん よりお祝いを申し上げます。
勝林寺 西池 入海さん (匡紹様宅)
榎見 横山 ゆいさん (誠様宅)
坪口 中嶋 未来さん (庄二様宅)
坪口 中島 彩奈さん (孝浩様宅)
暮坂 平野 俊之さん (孝幸様宅)
宮内 角折 信さん (幸江様宅)
出合市場 大石佳奈さん (英明様宅)
口小谷 宮嶋 梓さん (まゆみ様宅)
口小谷 宮嶋 里歩さん (義明様宅)
正法寺 森友 恭太さん (強様宅)
上小田 斎藤 隆さん (バソリ様宅)

年頭の行事日程をお知らせします

お知らせ

二月二十一日 仏婦評議委員会

二月三日 仏壯総会

一月二十日 代議員会

一月十三日 総代会

各個人へのご案内は、後日お届けいたします。

お世話になります。よろしくお願ひいたします。

たくさんモチ米をお供えしていただきましたので、十四うすもついていただきました。すべての作業を終えて、皆さんのが帰られる頃には、外はすでにうすぐらくなつておりました。お餅はお供えは勿論、除夜会に皆さんに振舞います。(一)の寺報がとどくいわぬきりと間に合いました(一)ぜひ、お参りください。

十二月二十七日前日の夜から降り出した雪が、地面を覆い、さらに、雨をたっぷり含んだ雪が、ほぼ休むことなく降り続く中にも関わらず、多くの方にお集まりいただき（総勢二十七名！）恒例の餅つきを行いました。今年は、

どうさん

帰つてきました。おじいちゃん満面の笑み！

第三・二位 住職坊守 轉國に行く

四月、おじいちゃんと姉夫婦にお留守番をお願いして、日本よりひと足先に満開を迎える韓国の見事な桜を見に行こうと住職のお友達夫婦に誘つていただき、思い切つて出かけてきました。そのすごいこと！ 子どもたちのいない三十一年ぶりの大人旅でした。

第一位 おじいちゃんお淨土へ

多くの方に見送られ、前住職がお淨土へ往きました。しかし、その心は勝林寺の本堂に、庫裏のあちこちに、ご門徒さんのご家庭に、有縁の皆様のおそばにずっとずっと居続けます。

二〇一八年が、皆様にとりまして安穏な一年でありますように。

(文責 坊守)

かねてより悩まされていた親知らずの痛みからようやく解放されました。しかし、そこには、語りつくせぬ痛みがありました。

第四位 おじいちゃん アメリカの曾孫と対面

七月、アメリカで暮らす長男一家の娘「由衣」が母になり、娘の「未来奈（みくな）」を連れて

冬の京都の寒さと足の痛みになんとか耐えて晴れて度牒（どちよう）をいただきました。成人式には、僧侶としての正装で臨むそうです。

一年というくぐりで振り返ると、あ
のとどう間だったように思えます。
でも、そのひとつひとつの出来事を
思い出すとずいぶん長かったよう
にも感じます。不思議なもので
すね。さて、新しい年を迎えるにあたり、勝林